令和４年度入学試験問題（後期日程）

小　論　文

（中等教育教員養成課程）

注意事項

1. 解答は、すべて別紙解答紙の指定の箇所に横書きで記入すること
2. 解答紙には必ず受験番号を記入すること

令和４年度後期日程入学試験問題

問題訂正

中等教育教員養成課程

◎科目名　　小論文

１ページ
本文７行目

（誤）想いおこさせた

（正）想（おも）いおこさせた

〔問〕中等教育においては、単数あるいは複数の学問分野を背景とする教科・科目が設置されている。その意味で、生徒の教育にあたる教員を目指す学生には、各自の専門分野を深く学ぶとともに、学際的な視点を持つことが求められる。そのような学際的視点が不可欠なテーマの一つが環境問題であると考えられる。以下の文章を読んで、問いに答えなさい。

環境問題は既存の学問を揺るがしている。個別科学の対象や方法にも新たな課題を提起する一方、総合のあり方も問い直されている。環境研究の統合をめざす環境学は、さまざまの異なる学問分野の専門家の集団による学際的研究から生まれるとされてきた。個々の科学者は、専門的な研究成果を実際の環境問題の解決に直接適用できないことに気づいたからである。これまでの学際的な研究や教育は、いろいろな環境現象のあいだに相互依存や相互関係があること、ある環境問題を一つの学問分野の視角から研究した理論的結論は問題解決には不十分であることを想いおこさせたが、異なる学問分野を真に統合するという要求にはそっていない。

環境学は、これまでの縦型の学問体系に対して、横型のつながりを求めるものである。しかし、ここにジレンマが発生する。個別科学を極めようとすればするほど、個別科学を深化させることが要求され、個別科学相互を結びつけようとする意欲が希薄になるからである。環境研究の統合をなしとげるためには、これまでの個別科学の成果をふまえつつ、(＿＿＿＿＿＿＿＿)型の総合化研究を推進していく必要がある。とくに必要なのは現場の環境学研究が個々の学問に刺激を与えると同時に、個々の学問上の境界線をこえることを可能とする共通の概念的枠組みであろう。一方、環境学は、真理探究型の現象解明と、問題解決型の行動規範を、矛盾なく結びつけるという責務を負っている。これまでの学問以上に、環境学では、自然科学と社会科学の融合が必要である。

(出典)武内和彦・住　明正・植田和弘　著「環境学序説」岩波書店、2003年、p.37.
(設問の都合により本文の一部を改変している。)

(問1)　（　　）の中に入る用語のうち、最も適切な用語を以下の（1）～（5）の中から1つ選び、解答欄にその番号を記入しなさい。

（1）プレゼンテーション

（2）プログラミング

（3）ネットワーク

（4）アルゴリズム

（5）ケース・スタディ

(問2)　各自の志望する専攻に関わる分野と他分野の双方の知見を総合することが求められるテーマの例を300字以上400字以内で記述しなさい。